

産業開発青年隊の歴史と今後の同窓会活動について

産業開発青年隊同窓会長 鈴木 浩明

令和 1 年 1 1 月、産業開発青年隊創設 6 5 周年記念大会での、産業開発青年隊同窓会総会の場において、私は第 4 代産業開発青年隊同窓会長を拝命しました。令和 2 年には、北海道、沖縄、九州、関西、中部、関東と各ブロックの同窓会に参加和させていただき、活動内容を会見させていただきました。また、同窓会長を拝命する 2 年前には、ブラジルで行われた、南米産業開発青年隊 6 0 周年大会に参加させていただきました。ブラジルの南米産業開発青年隊同窓会長の渡辺 進会長は、富士宮市役所下水道課に勤務されていたことがあり、富士市出身の剣道 8 段の凄腕の方です。私が、隊員だった昭和 5 9 年、海外課程ブラジル班第 7 次派遣隊として、ブラジルにおいて派遣実践に参加させていただきました。その時にも、渡辺会長には大変お世話になり、ブラジル各地に在住される、先輩方の活躍を目にさせていただきました。当時、世界一の規模であるブラジル、アルゼンチン、パラグアイの国境にまたがるイタイプーダムが竣工したばかりでした。このダムの建設では、工事が大変遅れて、予定工期に間に合わない状況となってしまうていたそうですが、青年隊の 7 人の猛者が、現場に入り、見事工期を短縮し、予定工期に間に合わせたそうです。また、ミナスジェライス州で、コーヒー農園を営んでいる先輩のところにも訪ねさせていただきました。その時、先輩に、農園の広さを訪ねると、地平線までだよといとも簡単に答えられました。

昭和 3 8 年、富士宮市に建設省建設大学校中央訓練所が設立され、平成 8 年 3 月に閉校になるまでの、3 3 年間に約 4, 0 0 0 名の産業開発青年隊の同志が、寝食を共にし、厳しい訓練を受け、日本や、世界各地に雄飛していきました。昭和 2 8 年の創設時の方が約 9 0 歳になり、一番若い方でも 4 7 歳になります。また、ブラジルの方々でも、若い方で、7 0 代となり 3 世、4 世の後継ぎがいっぱいいます。

ブラジルに移住された先輩方は、日本国に対して望郷の念を抱いている方が多いのではないかと思います。以前お会いした、先輩に「僕は、戦災孤児で身内は誰もいないんだよ。生きるために青年隊に入り、ブラジルに希望を持ち移住をしたんだ。だけど、日本のことは忘れられないし、日本にも死ぬまでにあと一度、帰ってみたいんだよ。」とたどたどしくなりつつある日本語でわたくしに話しかけていただきました。ブラジルの同窓会は、家族ぐるみでの参加で、大変明るい活動になっています。今後は、3 世、4 世の方が、おじいちゃんの生まれた日本に行きたい。勉強をしたいという時代になるのではないのでしょうか。その時には、ぜひとも富士宮の地で、日本の産業開発青年隊の同窓が集まり、彼らと、ともに交流をしたいと思います。産業開発青年隊の熱い思いが、子孫に受け継いで聞くことができるよう、頑張りたいと思います。そのカギは、富士教育訓練センターと若獅子神社、そして富士山だと思います。富士宮市民として、産業開発青年隊の同窓生として、誇りを持ち伝承していくことが、私の夢となりました。それが、建設省産業開発青年隊創設者の長澤亮太先生、恩師吉留一利先生への鎮魂の活動になると思います。皆様のご協力を切にお願いいたします。

令和 4 年 お盆を前にして